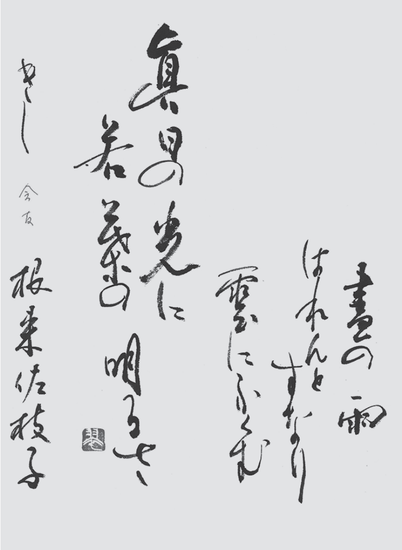
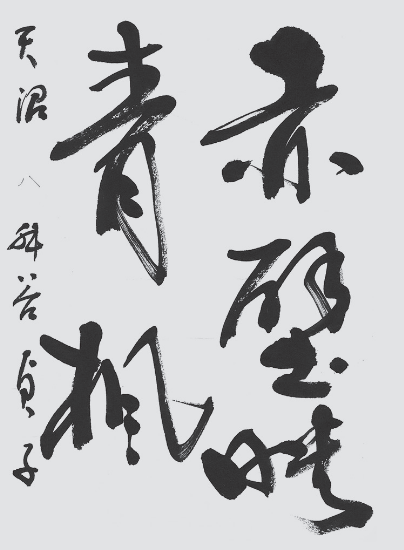
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



きし　根来　佐枝子　出だしの上部の余白と後半二行のおおらかで伸びやかな運筆が明るい。大き目な落款印が引き締めている。
（審査評　二宮　桂秀）

【漢字半紙】



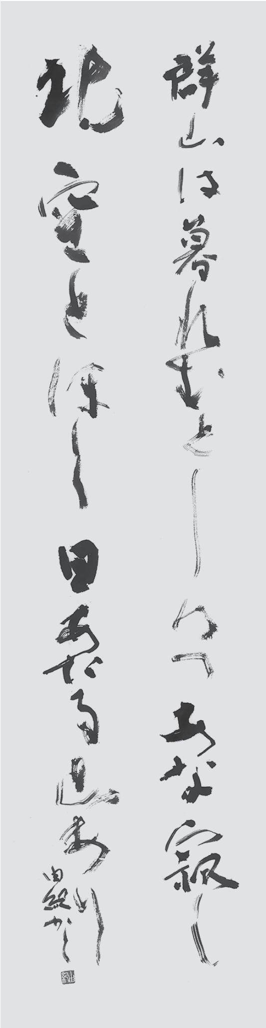
天沼　舛谷　貞子　力強さと繊細さが巧みに交錯し、大胆な構図でありながら余白の美しさが際立つ、すっきりとした構成の秀逸作。
（審査評　磯崎　香月）

【漢字条幅】

采女　熊野　素心　字大と墨の潤渇の変化が、心地良い行の響き合いを醸し出している。濃墨による余白を生かした明るい秀作。
（審査評　永井　香樹）

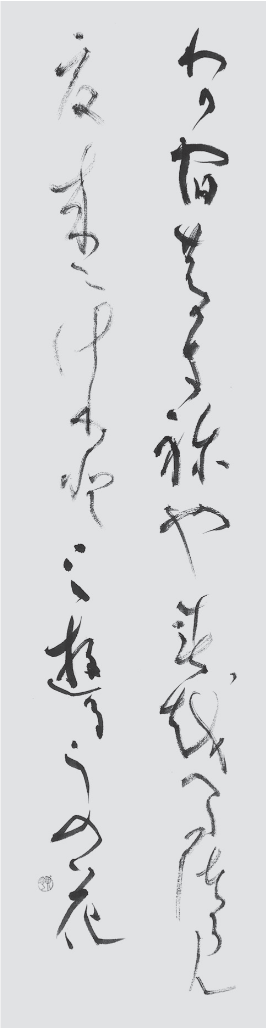
6月提出の競書の写真版全作品は、6月26日（木）より本会ホームページに掲載いたします。

【新和様条幅】



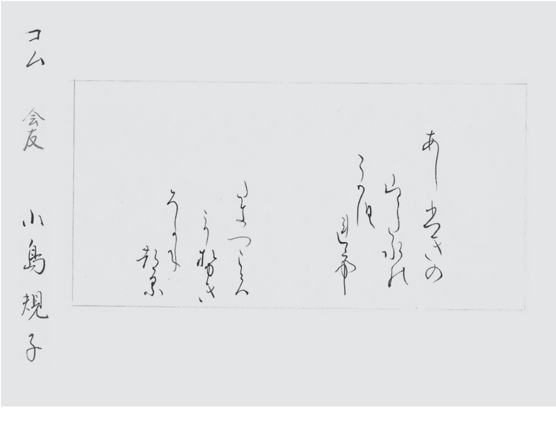
いち　榊原　由紀子　墨色、潤渇、字の大小、行間の余白などを留意され、多彩な線で作品を魅了している。一行目の「つつ」が読み辛い。
（審査評　東仲　遙邨）

【かな条幅】



東林　藤巻　桂泉　墨量の巧妙さ見事。沈着で奥深い線は多彩な変化を表わしている。息長い渇筆部も悠揚たる流動美を醸した作。
（審査評　中條　琳音）

【かな半紙】



コム　小島　規子　細線が明るく美しい。行の間隔や傾きを的確に捉えて、原本に近い見事な散らしを展開している。左下部「勢」「累」に重厚な筆致が入るとさらに良し。
（審査評　岩浪　春鳥　）

漢 字 半 紙

今月の優秀作品

漢字半紙

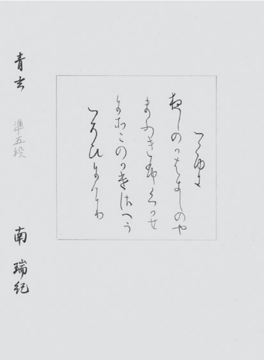
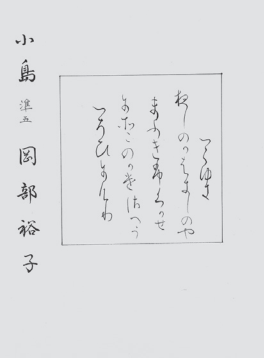
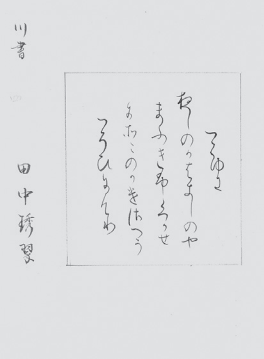
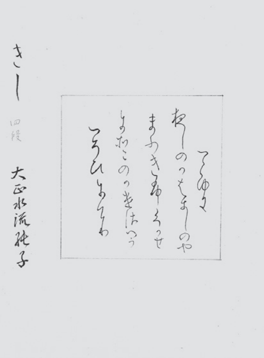
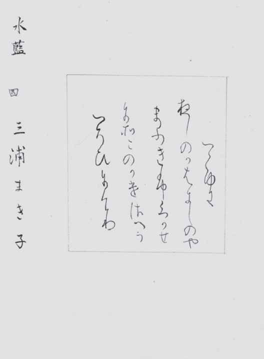
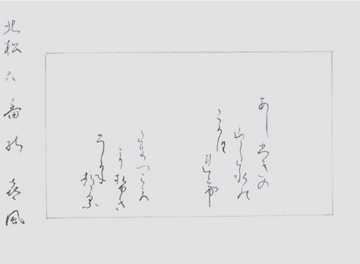
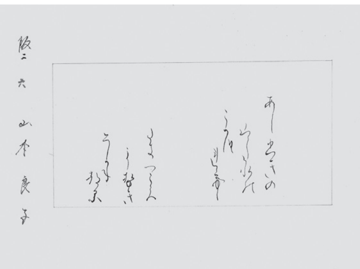
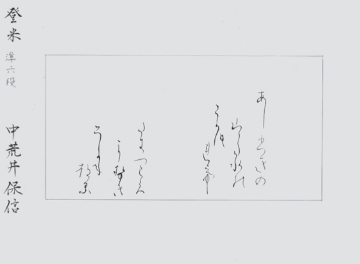
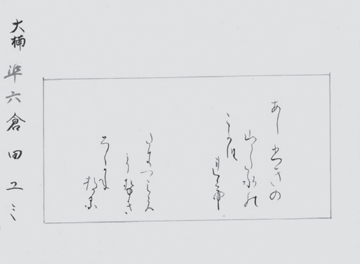
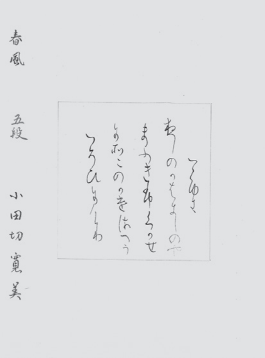
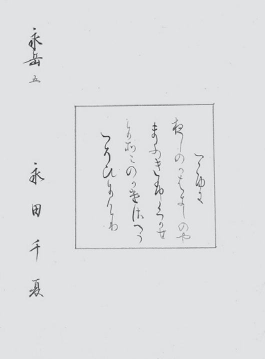
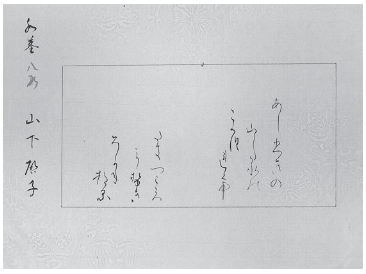
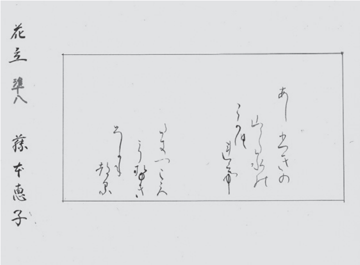
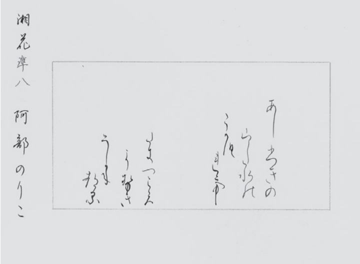
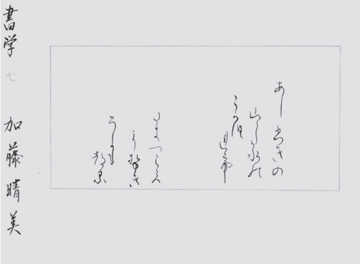
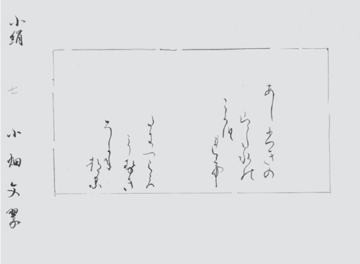
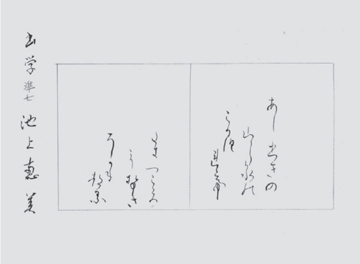
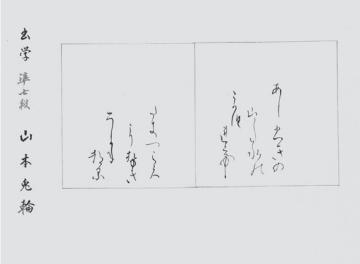
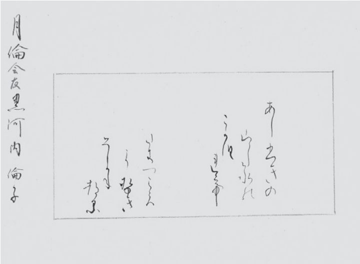
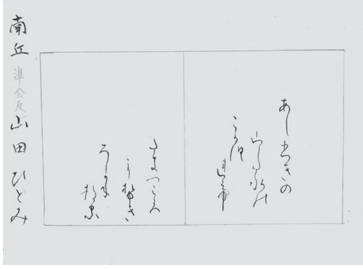
今月の優秀作品

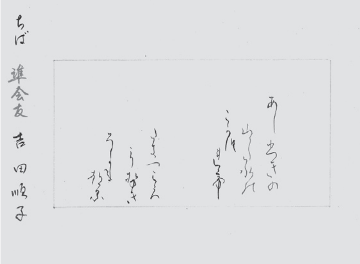
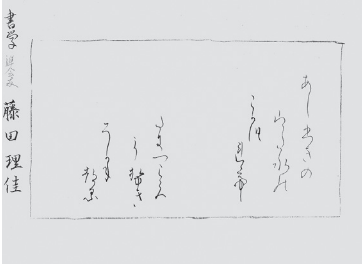
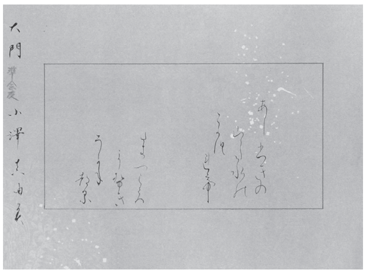
今月の優秀作品

漢　字　半　紙

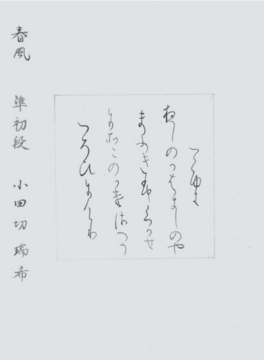
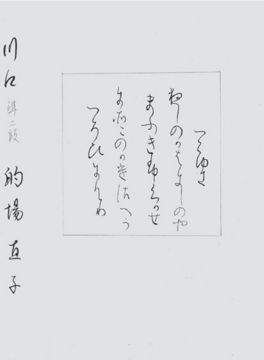
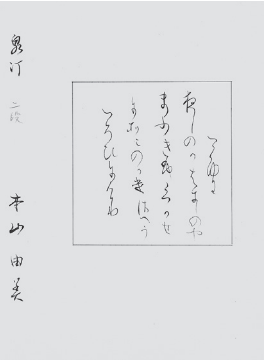
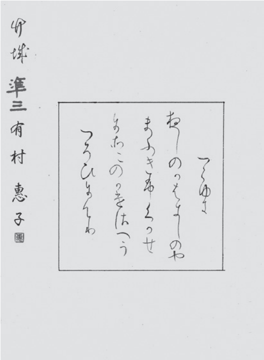
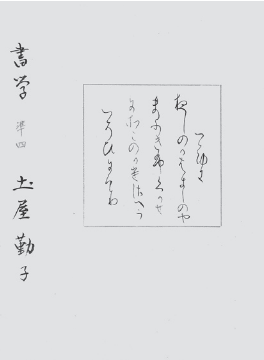
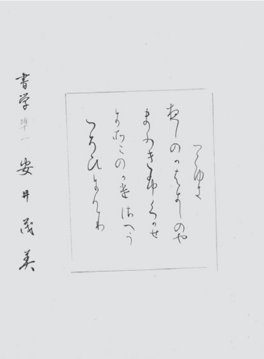
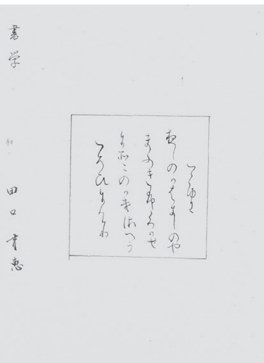
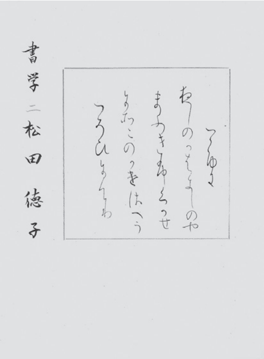
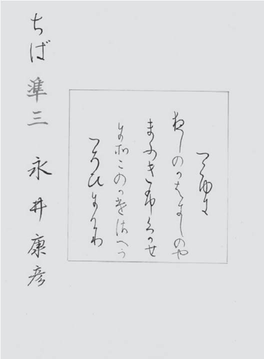
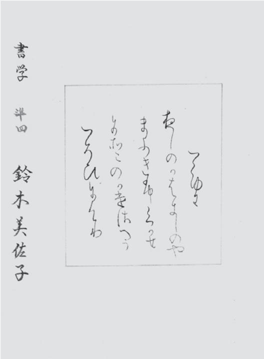
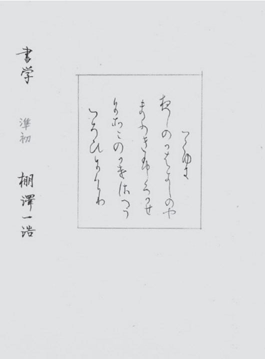
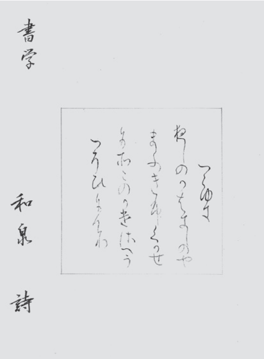
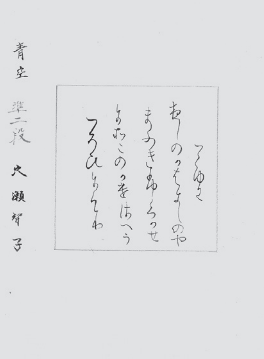
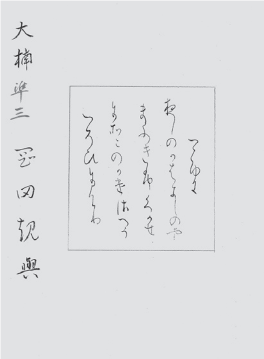
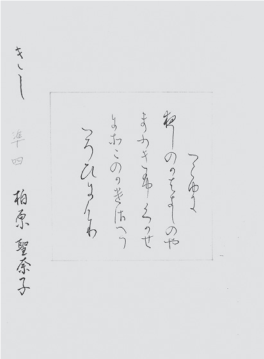
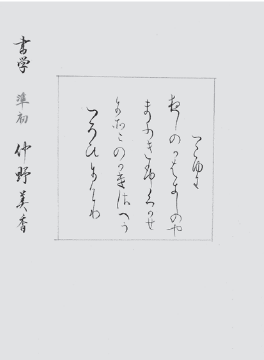
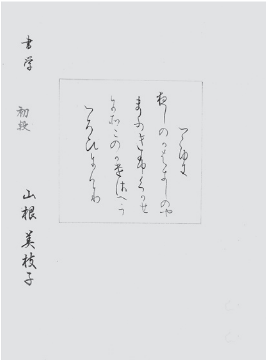
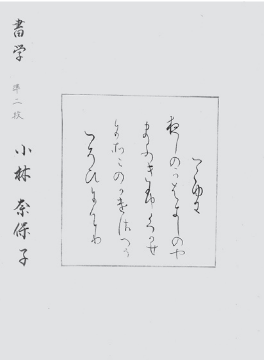
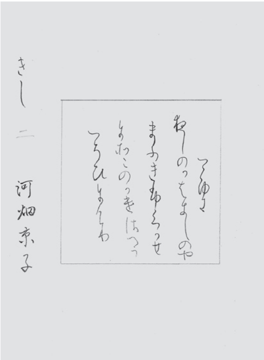
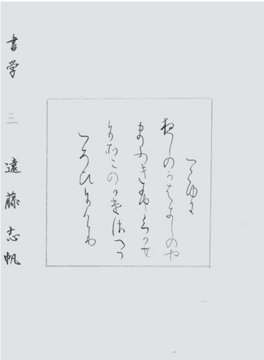
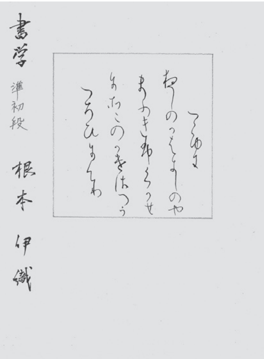
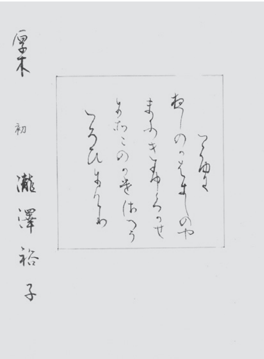
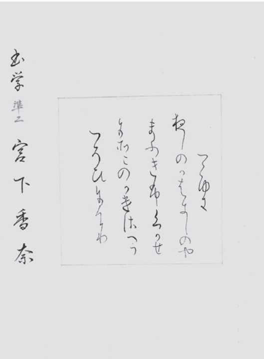
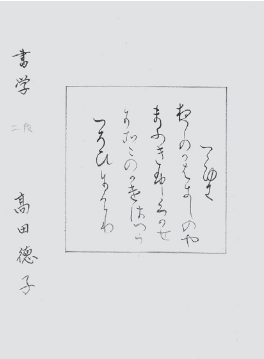
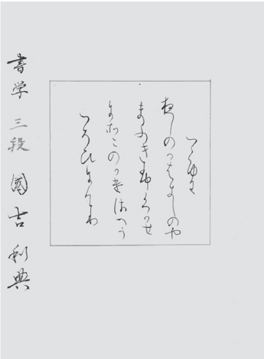
かな半紙

今月の優秀作品

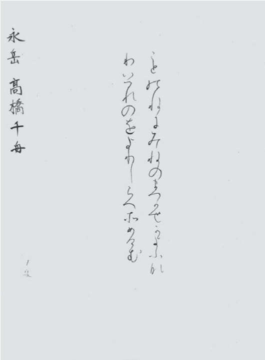
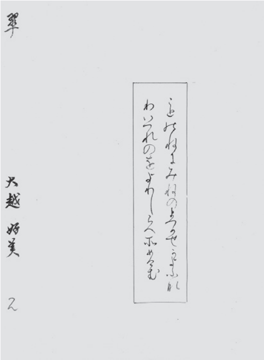
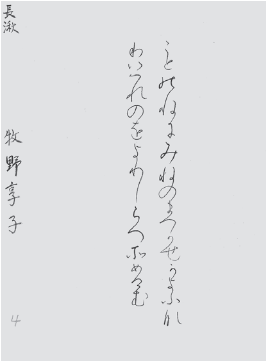
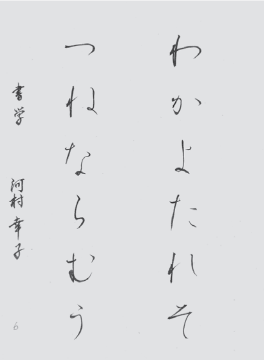
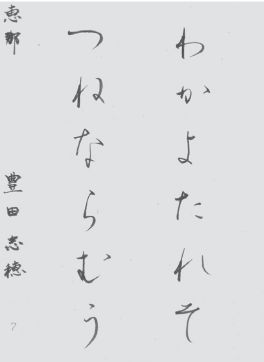
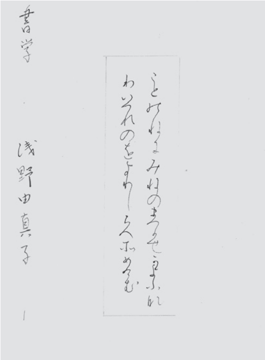
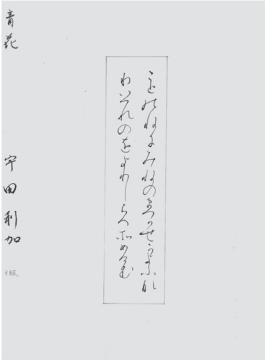
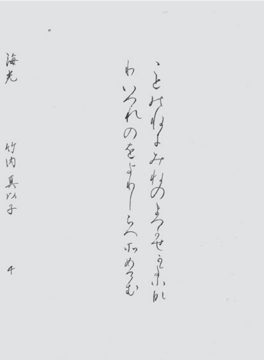
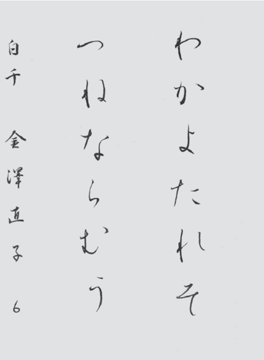
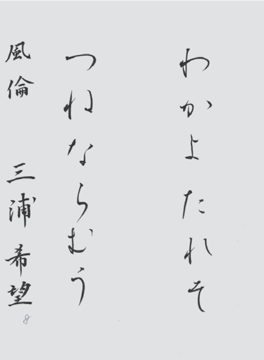
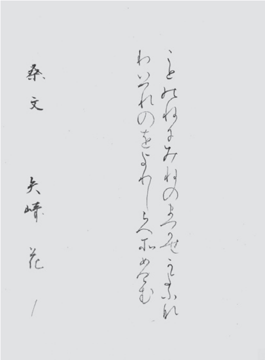
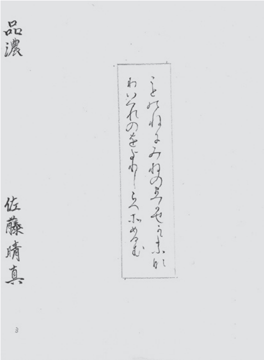
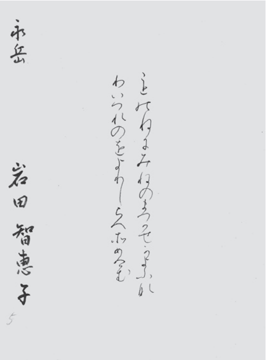
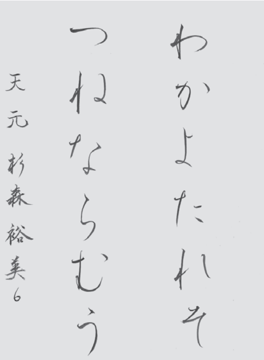
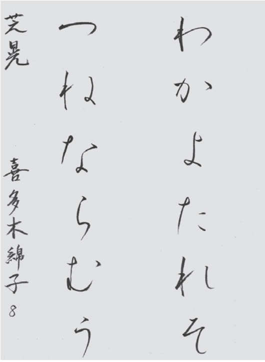
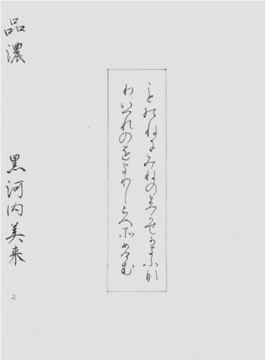
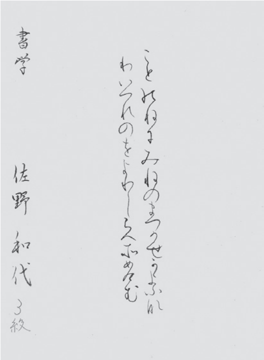
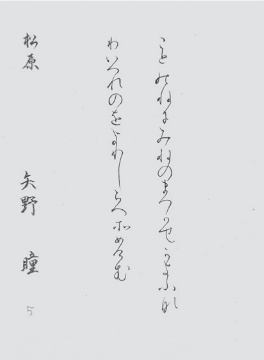
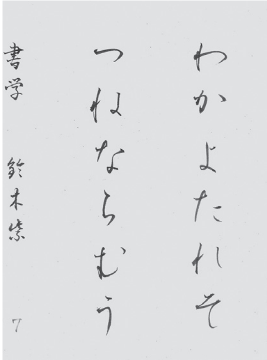
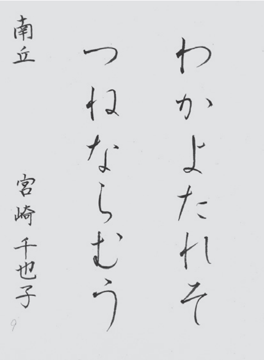
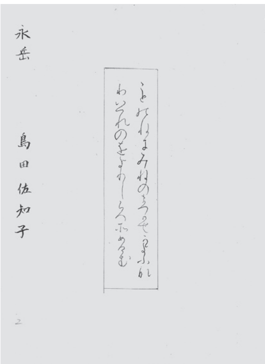
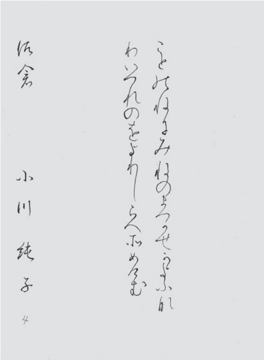
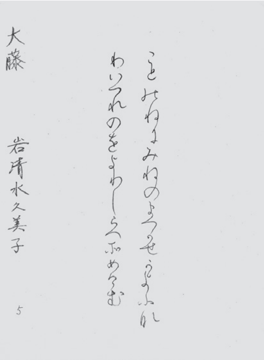
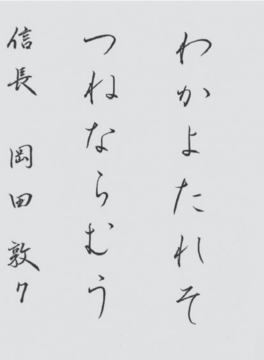
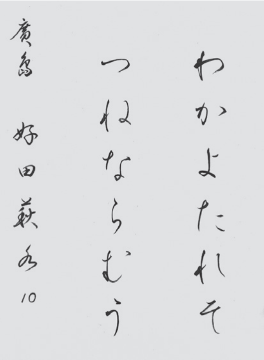




かな半紙

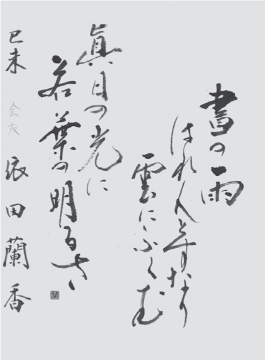
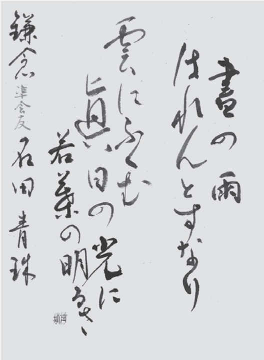
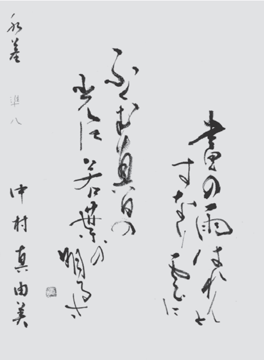
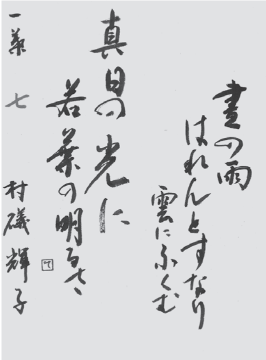
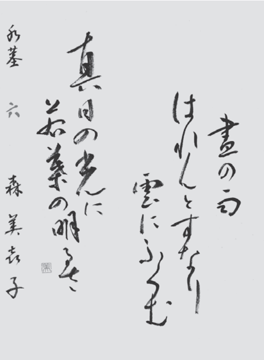
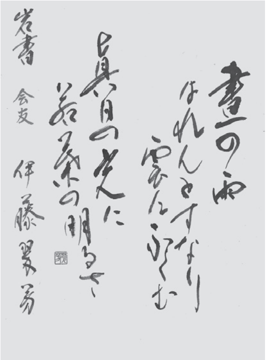
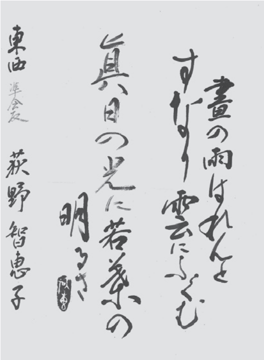
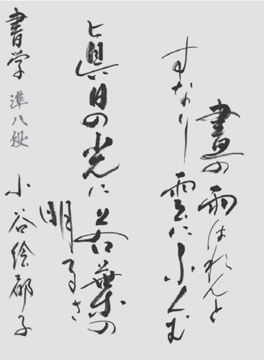
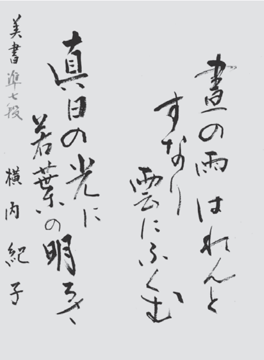
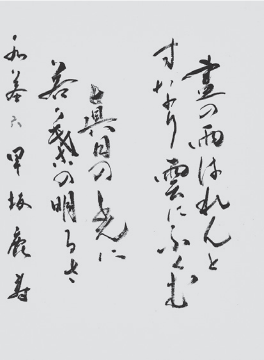
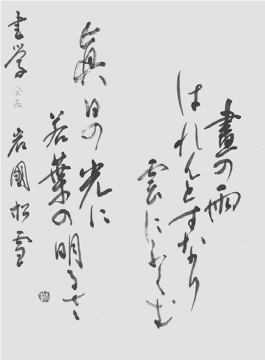
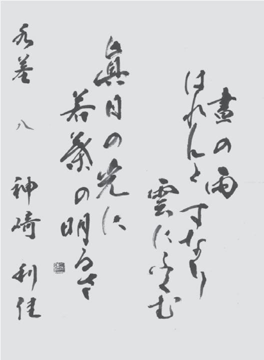
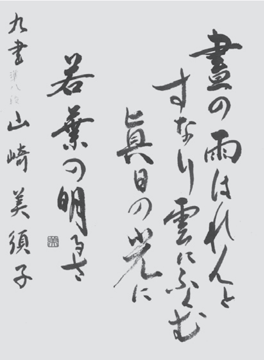
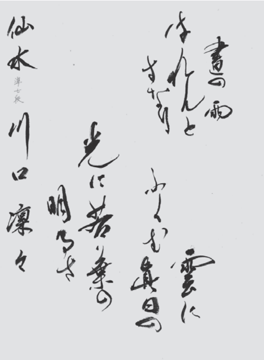
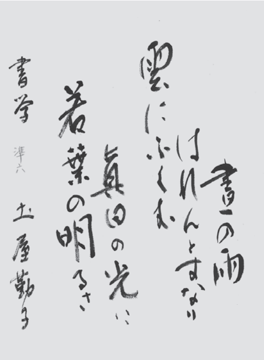
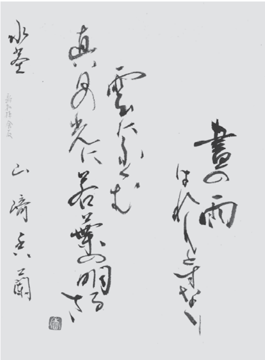
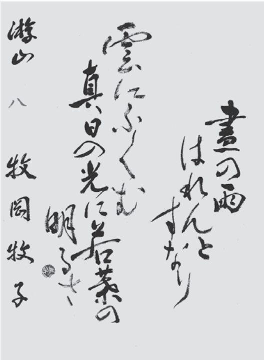
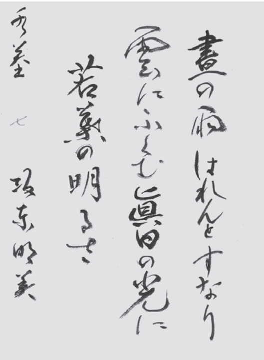
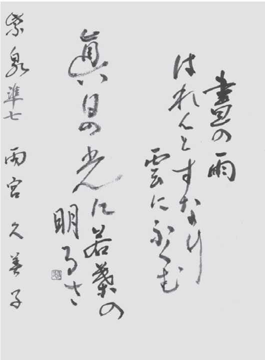
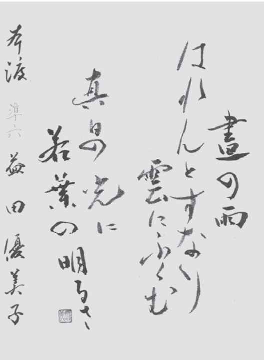
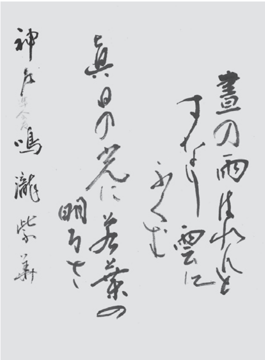
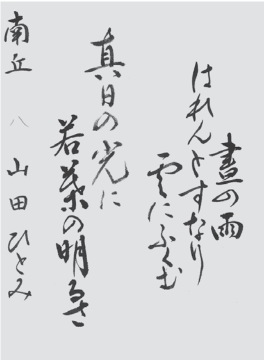
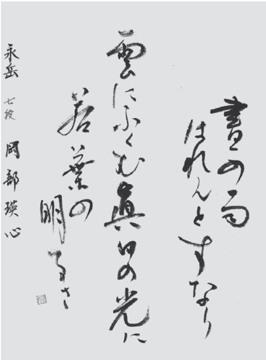
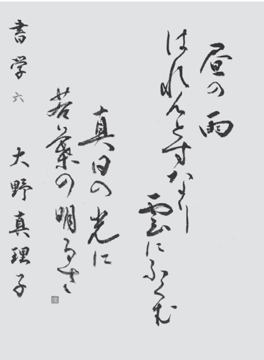
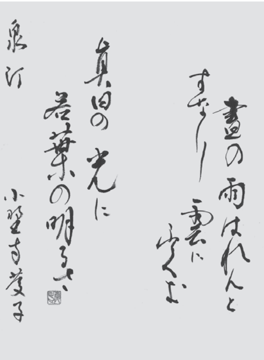


























かな半紙

今月の優秀作品

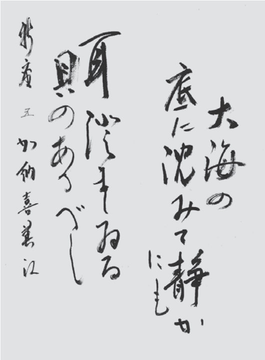


























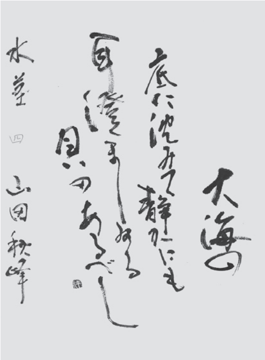
新和様半紙

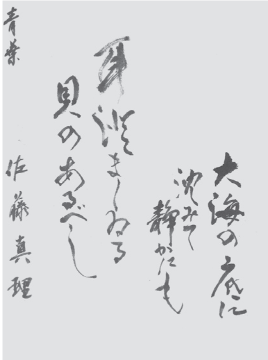


























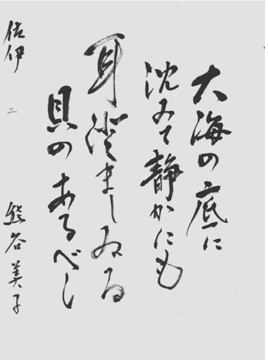
新和様半紙

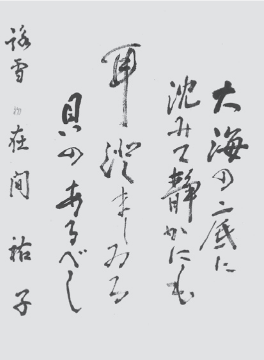
今月の優秀作品

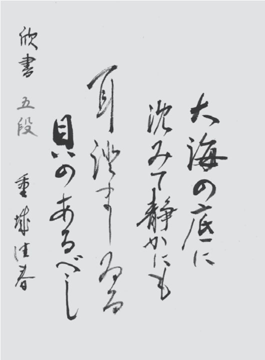


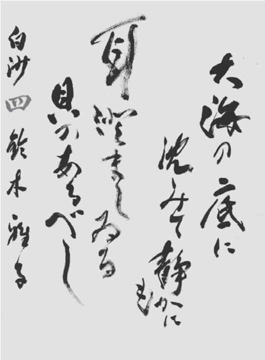


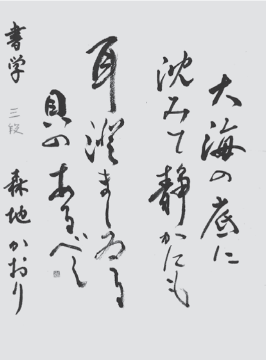


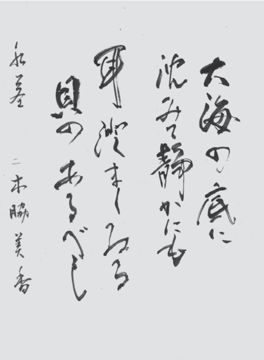


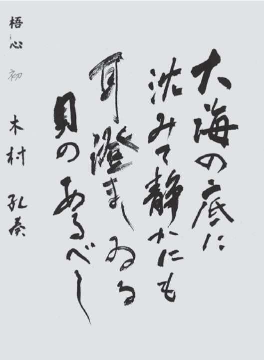


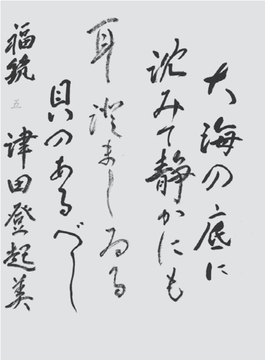


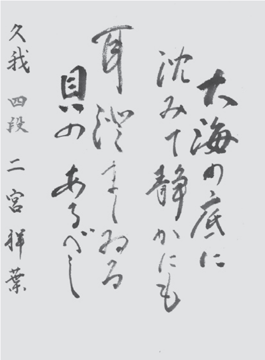


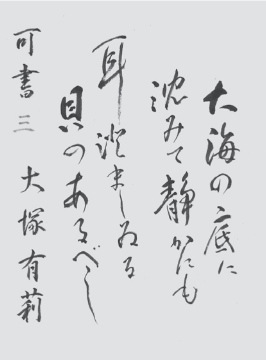


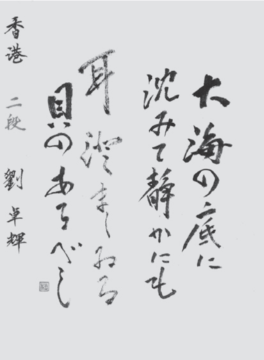


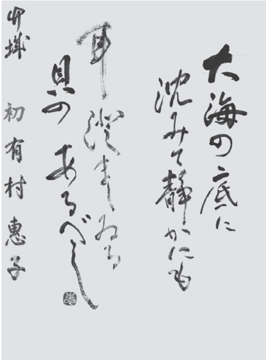


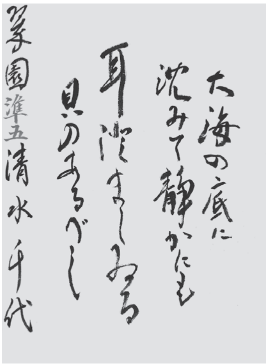


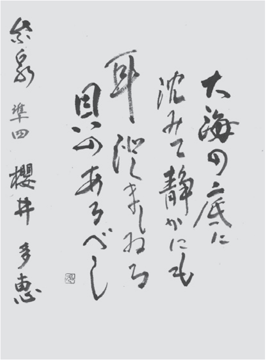


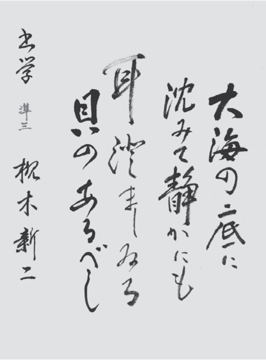


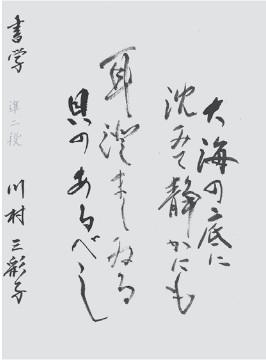


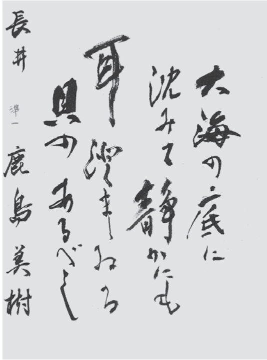


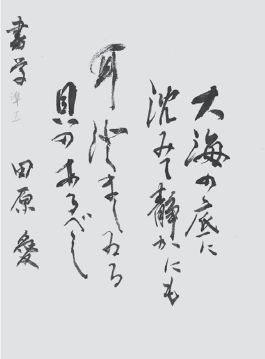


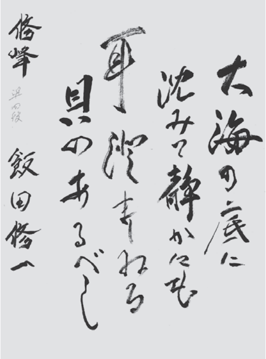


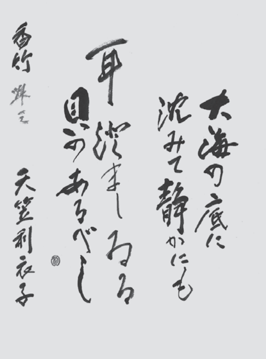


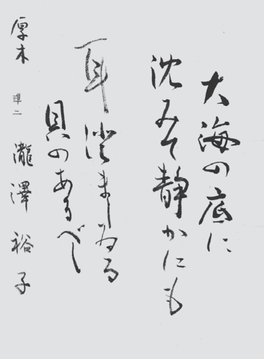


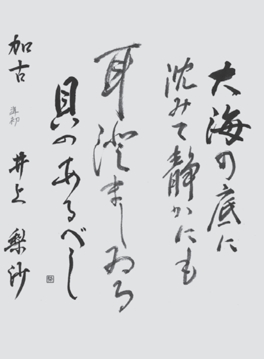




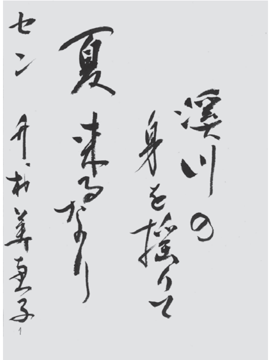


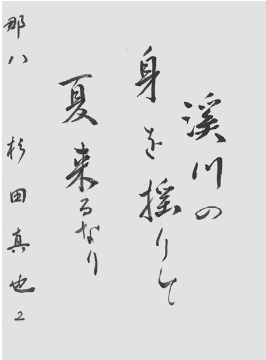


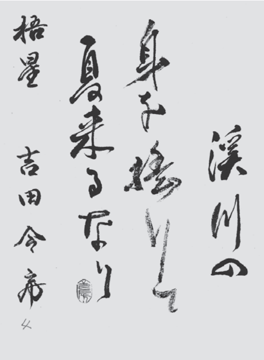


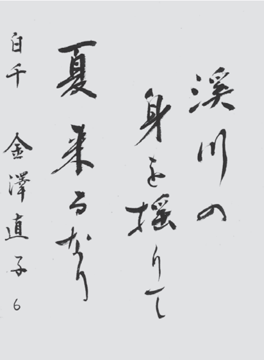


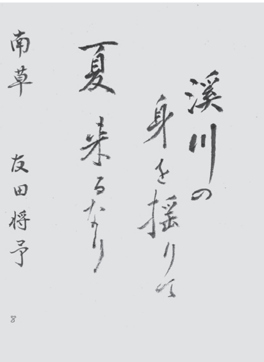
新 和 様 半 紙

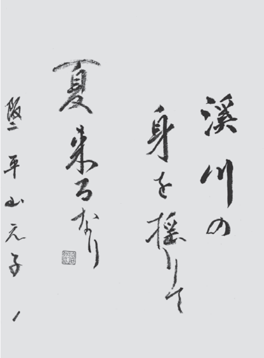

渓川の身を揺りて夏来るなり
セン
1

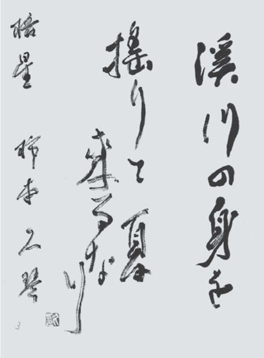

渓川の身を揺りて夏来るなり
那八
杉田真也
2

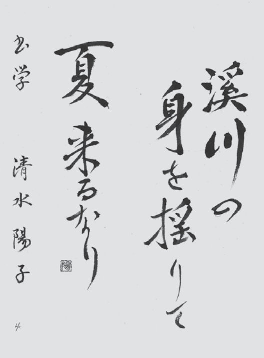

渓川の身を揺りて夏来るなり
梧墨
吉田令

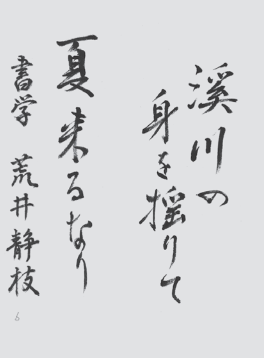

渓川の身を揺りて夏来るなり
白千
金澤直子
6

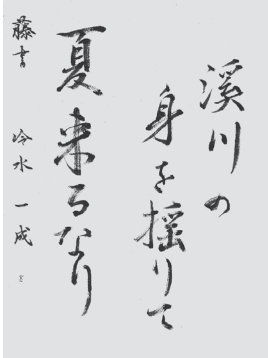

渓川の身を揺りて夏来るなり
南草
友田将予
8

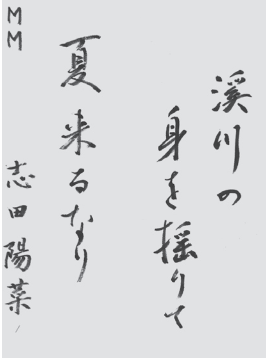

渓川の身を揺りて夏来るなり
1

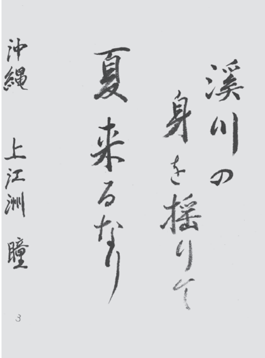

渓川の身を揺りて夏来るなり
梧墨
3

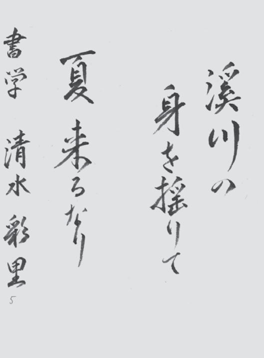

渓川の身を揺りて夏来るなり
清水陽子
4

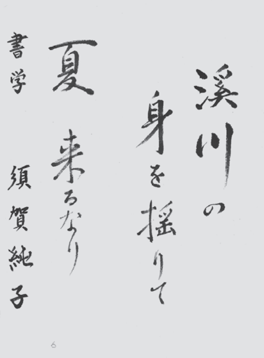

渓川の身を揺りて夏来るなり
書学
荒井静枝
6

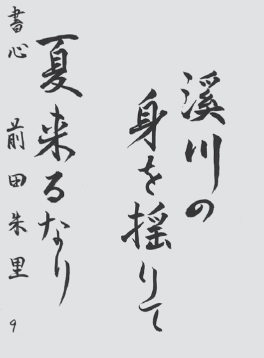

渓川の身を揺りて夏来るなり
冷水一成
8

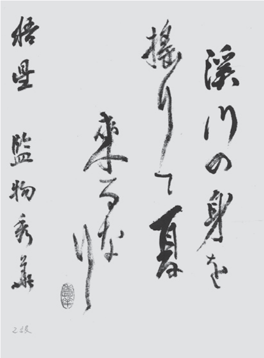

渓川の身を揺りて夏来るなり
MM
志田陽菜
1

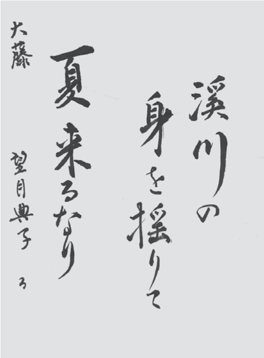

渓川の身を揺りて夏来るなり
沖縄
上江洲瞳
3

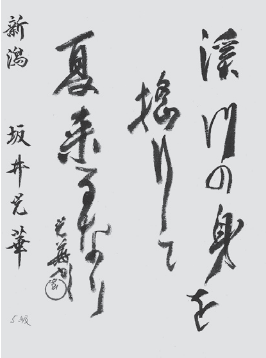

渓川の身を揺りて夏来るなり
書学
清水彩里
5

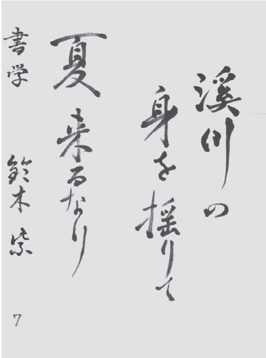

渓川の身を揺りて夏来るなり
書学
須賀純子
6

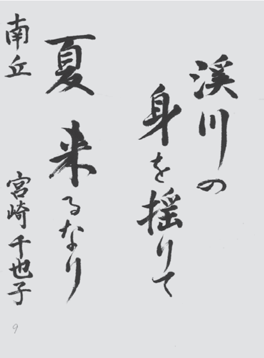

渓川の身を揺りて夏来るなり
書心
前田朱里
9

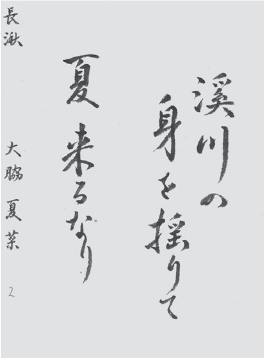

渓川の身を揺りて夏来るなり
梧墨
2級

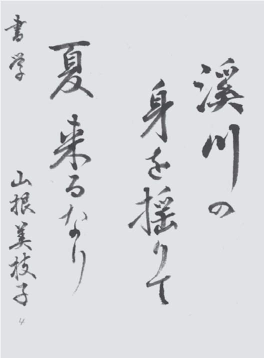

渓川の身を揺りて夏来るなり
大藤
望月典子
3

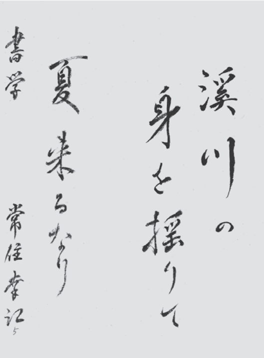

渓川の身を揺りて夏来るなり
新潟
坂井光華
5級

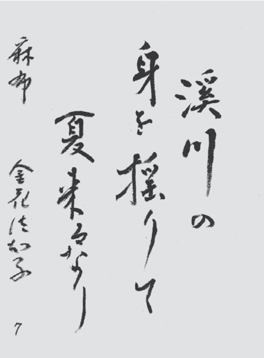

渓川の身を揺りて夏来るなり
書学
7

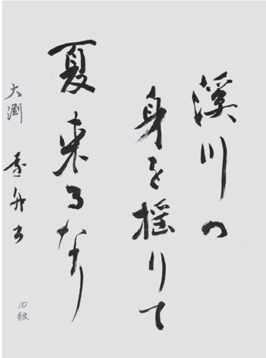

渓川の身を揺りて夏来るなり
南丘
宮崎千也子
9


渓川の身を揺りて夏来るなり
長湫
大脇夏菜
2


渓川の身を揺りて夏来るなり
書学
山根美枝子
4


渓川の身を揺りて夏来るなり
書学
5


渓川の身を揺りて夏来るなり
麻布
7


渓川の身を揺りて夏来るなり
大渕
10級

漢字条幅

コム　小島　規子

洗心　浅地　友子

万里　神之田澄水

書学　藤井　明美

書学　増田　堅三

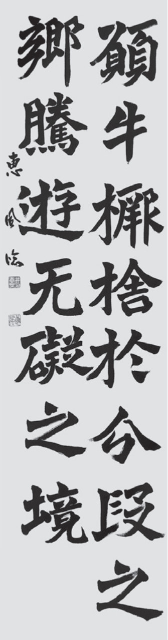
梧星　髙橋　圭子

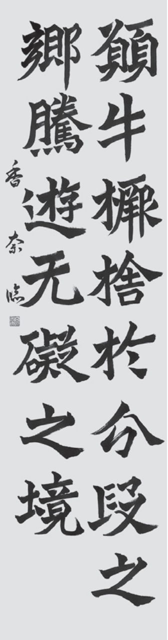
梧星　監物　秀華

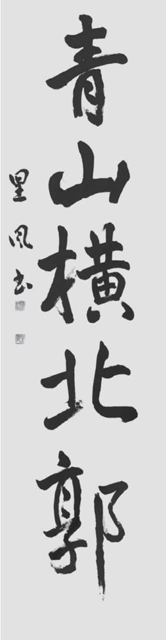
天沼　舛谷　貞子

水茎　川上　直子

松声　石川　祐子


九書　井上　恵子


書学　宮下　香奈


書学　上月里恵子

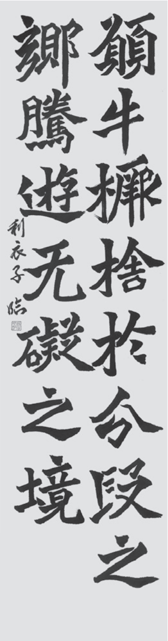
梧星　岡本　恵泉

小沼　大塚　恵一

水茎　神崎　利佳

紅彣　高　ななみ

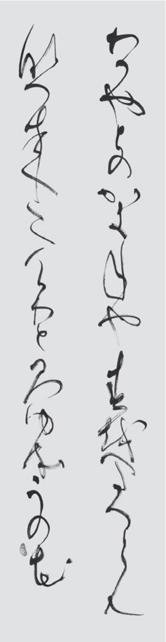
士呂　石原　京子


香竹　天笠利衣子

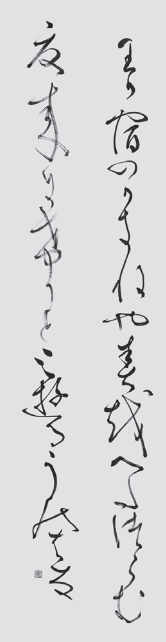
書学　清水　真理

梧星　和泉田生華

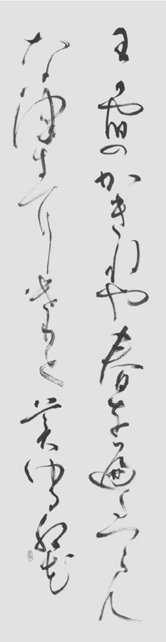
かな条幅



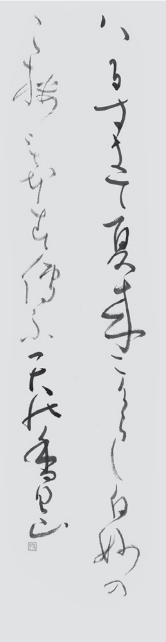
初音　岡本　智子



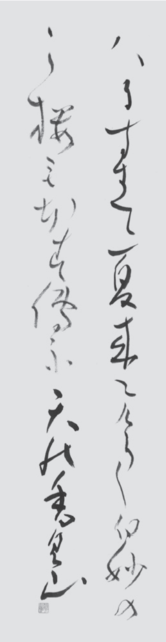
日暮　大唐美奈子



邑心　森川　純子



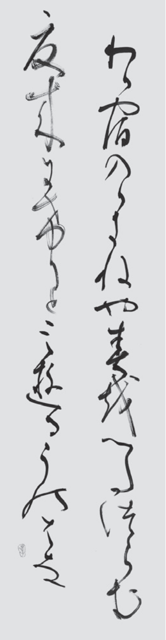
春風　渋谷　和子



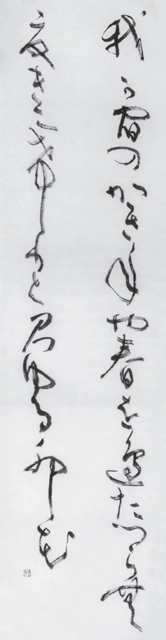
書学　江本真理子

月倫　並木さおり

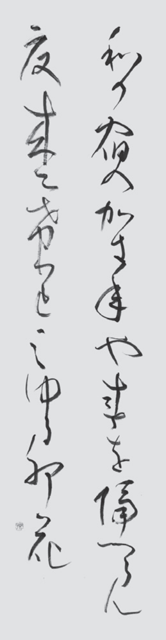
書学　清水　陽子



東西　村澤　澄子

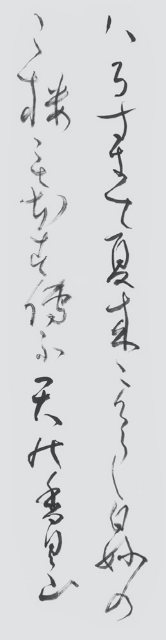


長野　岸　久子



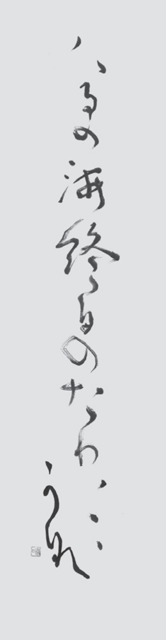
永岳　蛭間　紀子

祥瑞　萩原　奈々

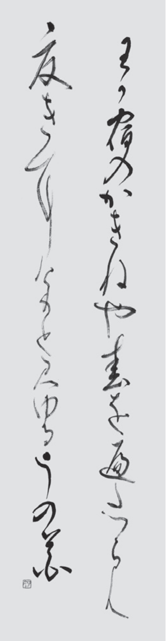


書学　稲井田柏葉

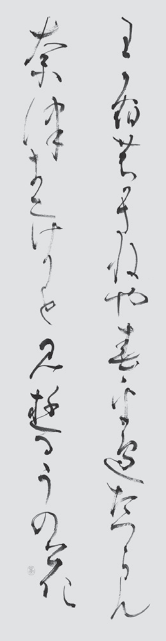
書学　菊地　秋子



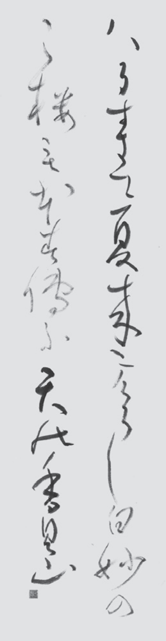
書学　高見　咲紀



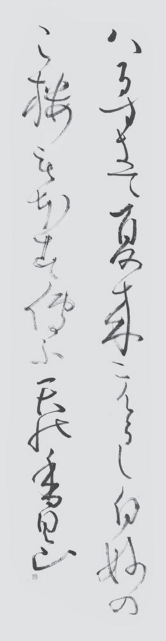
ちば　長瀬　好恵



横浜　浅野　薫

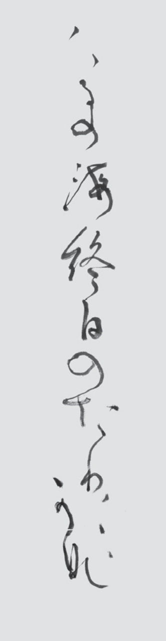


書学　藤村あゆみ



第一　奈良多津子

書学　佐野　和代

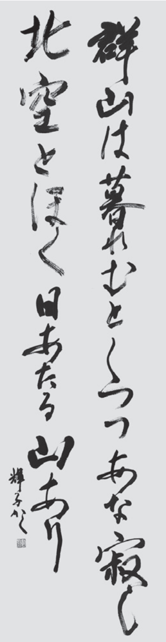


彩　瀬戸　紀水

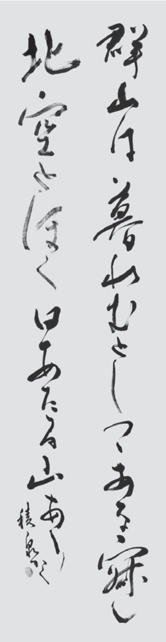
松原　矢野　瞳

新和様条幅

西宮　三橋　恵子

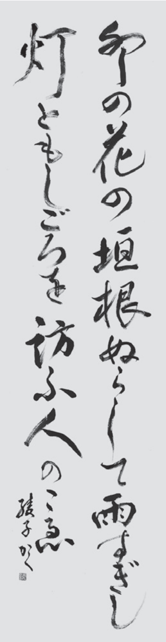


一葉　村礒　輝子

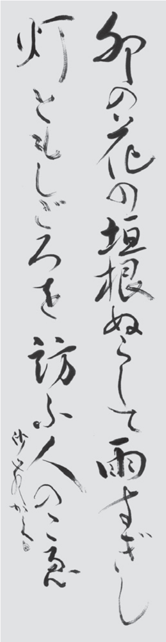


水茎　川上　直子

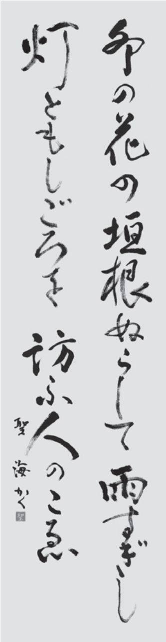
書学　山﨑　幸恵



玉堤　江口　綾子

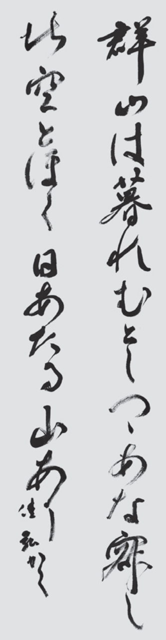


友和　遠藤　沙苑



新井　神崎　聖海

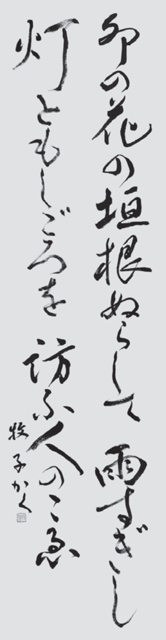
小沼　大塚　恵一



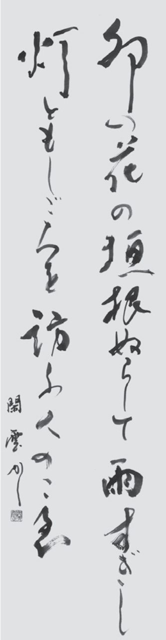
交墨　砂川　佳弘

千厩　千葉　咲子

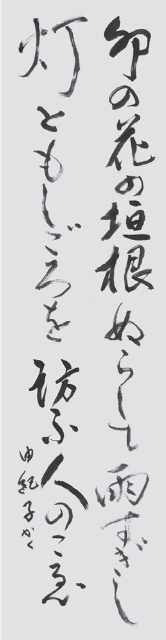
松声　浅野　壮子



游山　牧岡　牧子



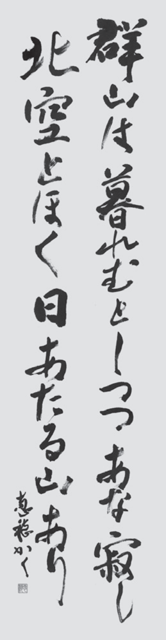
びわ　内田　閑雲



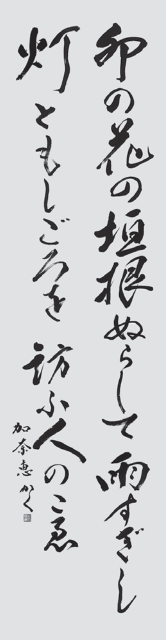
九書　仲山由紀子

横浜　高山　華月

栄　山田　青楓



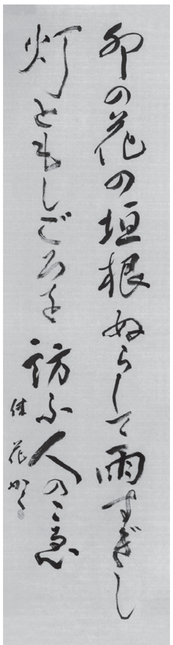
書学　森山　恵穂



大分　西林加奈恵

書学　久間砂登美

万葉　西原　恵子



湘花　高橋　佳子

実用書

これといった品も思いつかずかわりばえしませんが
とりたてゝめずらしくもございませんが
お荷物になりましてはご迷惑と存じ

教室名 CY
氏名 藤澤岑凰

これといった品も思いつかずかわりばえしませんが
とりたてゝめずらしくもございませんが
お荷物になりましてはご迷惑と存じ

教室名 湘花
氏名 阿部のりこ

これといった品も思いつかずかわりばえしませんが
とりたてゝめずらしくもございませんが
お荷物になりましてはご迷惑と存じ

教室名 凪倫
氏名 法嶋絵美

これといった品も思いつかずかわりばえしませんが
とりたてゝめずらしくもございませんが
お荷物になりましてはご迷惑と存じ

教室名 白庵
氏名 廣冨恵美子

これといった品も思いつかずかわりばえしませんが
とりたてゝめずらしくもございませんが
お荷物になりましてはご迷惑と存じ

大阪
岩谷[illegible]翠

これといった品も思いつかずかわりばえしませんが
とりたてゝめずらしくもございませんが
お荷物になりましてはご迷惑と存じ

教室名 建中
氏名 渡邉翠月

これといった品も思いつかずかわりばえしませんが
とりたてゝめずらしくもございませんが
お荷物になりましてはご迷惑と存じ

教室名 [illegible]
氏名 久富[illegible]

これといった品も思いつかずかわりばえしませんが
とりたてゝめずらしくもございませんが
お荷物になりましてはご迷惑と存じ

教室名 山口
氏名 村岡真由美

これといった品も思いつかずかわりばえしませんが
とりたてゝめずらしくもございませんが
お荷物になりましてはご迷惑と存じ

教室名 大藤
氏名 鈴木白蓮

これといった品も思いつかずかわりばえしませんが
とりたてゝめずらしくもございませんが
お荷物になりましてはご迷惑と存じ

教室名 福山
氏名 谷川かおり

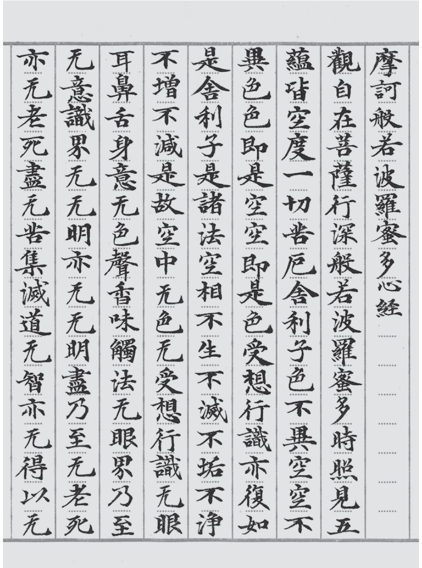
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが
とりたてゝめずらしくもございませんが
お荷物になりましてはご迷惑と存じ

教室名 唐扇
氏名 原田清華

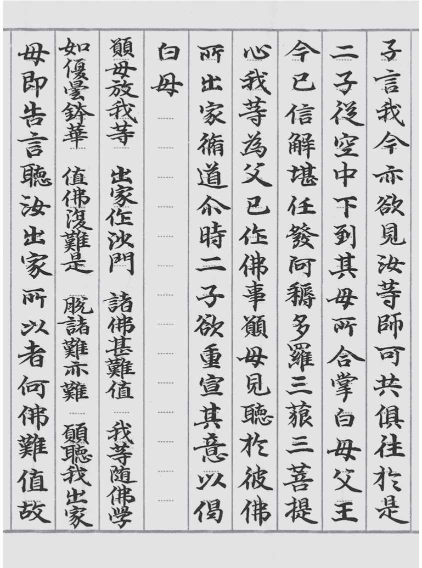
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが
とりたてゝめずらしくもございませんが
お荷物になりましてはご迷惑と存じ

支部名 MM
氏名 芳賀鳳鳥

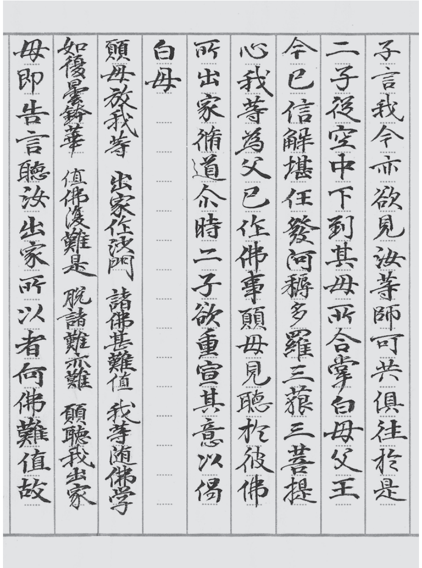
細　字



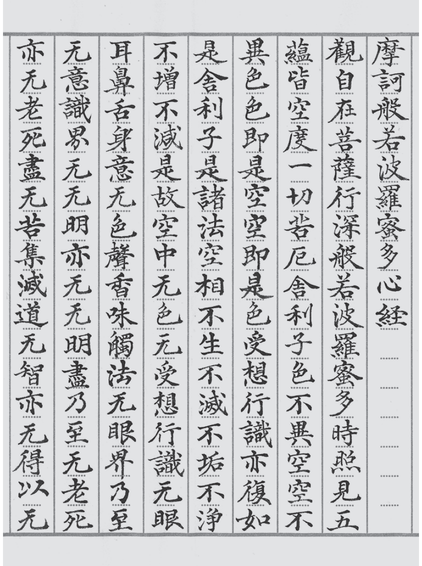
書学　棚田　恵子



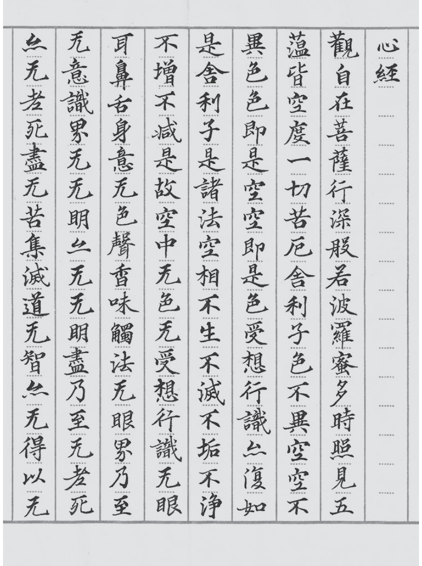
千翠　小宮富久子



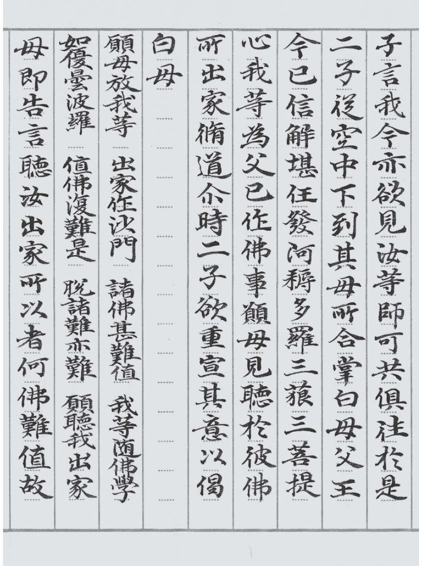
こて　伊藤　紫香



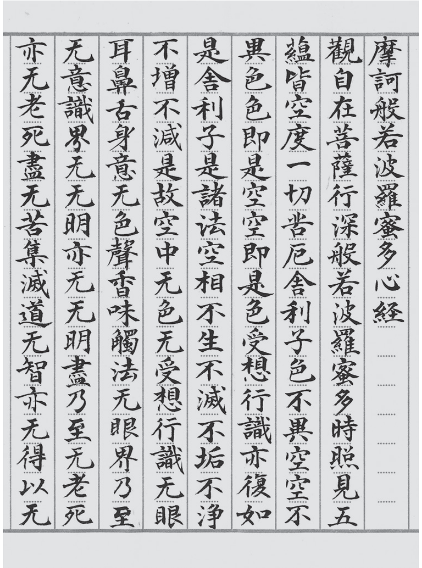
書学　細川　美帆



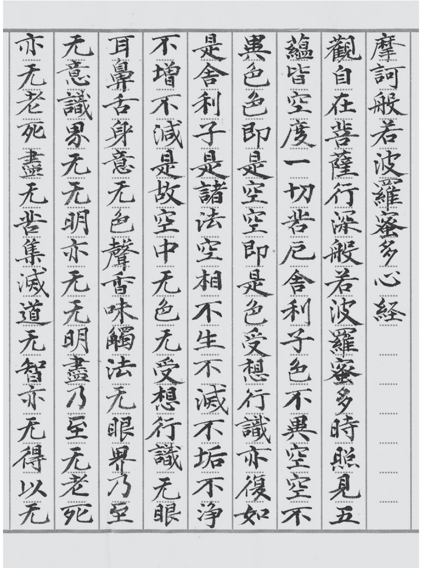
九書　石橋　栄子



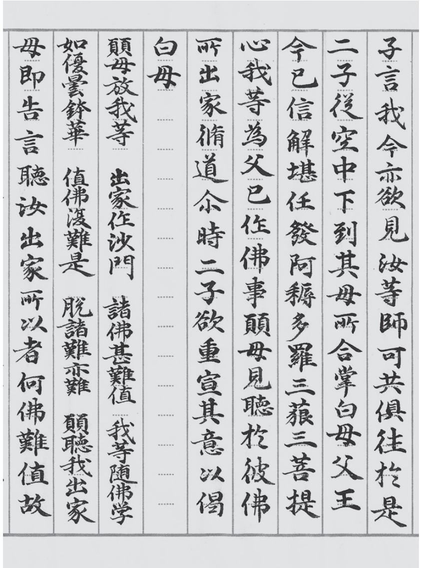
佐野　千葉　悦子



ぬま　齊藤　和菁



厚木　田中　白妙



九書　山崎美須子

今月の優秀作品

篆刻・一字書

審査評

審査評―秋山　凌雲

規定　「疑鳳舞」

島田　田村　潔

「疑」字に若干の難があるも金文を用い章法に優れた作。古鉥の趣が上手く表現されている。左の外郭は、分断しない方が良いように思われるが如何か。

書学　山本　兎輪

「舞」字を長く伸ばし、三字をあたかも四字かの如く見せる章法は流石。外郭も変化と重厚感があり、文字と調和している。

水茎　青戸　佑きこ

外郭を亜字形としたためモダンな感じのする印である。白文印であるので、全体的にもう少し太く刻しても良かったか。

随意　「逃禪煮石之間（模刻）」

書学　嬉野　満利子

呉譲之の模刻。多少線の弱い所があるものの細部まで目が行き届き、特徴をよく択えた秀作である。

規定　（禧）

審査評―石橋　鯉城

書美の真髄を求める漢字の一字書――

宮城　長嶋　翠月　やや右寄せにしながら偏旁の構成に一体化を見せ、草書の筆脈の流れを自然に表現。押印によって作品が安定した。

白根　豊岡　節子　大胆な筆運びで紙面を圧しながらも、墨の潤滑により明るさと立体感をみせる。雅印の収まりも良い。

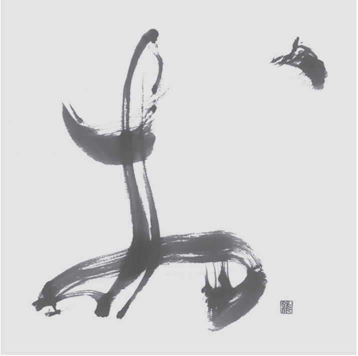
大門　片矢　菊枝　迷いのない一気呵成の運筆で、結体、構図が明快で見ごたえのある作品。押印を丁寧にされたい。

桑原　佐伯　政子　下部に広がりを持たせ全体を三角形に構成。含蓄に富む穏やかで変化のある運筆に味わいが感じられる。

随意　（お）

審査評―石橋　鯉城

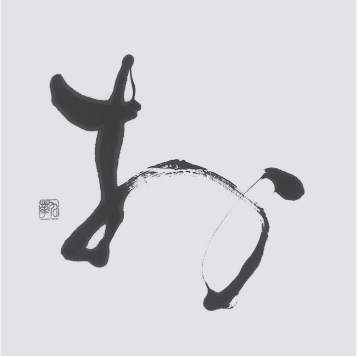
詩情や筆遣ひの極意を知る平がな表現――



水茎　鶴渕　雅子　力まず自然な運筆ながら、筆の開閉による太細の変化がみられる。最終画の点が余白の白を引き立てた。

百合　外山　香風　起筆から線の方向を変化させ、渇筆を利かせて躍動感ある作品となった。押印の位置に一考を。

宮城　武田　清流　緊張感のある深い線と骨力豊かな表現に運筆の呼吸を感じる。押印の位置と押し方の工夫を。



書学　豊田　九華　穏やかな運筆と墨の潤渇により、伸びやかな曲線が紙面に広がった。点がアクセントを添えている。